

WHO Report

ウォーキング・ホリデー・オギクボ

2023 年 5 月号

NO. 258

東京西ワイスメンズクラブ・東京YMCA杉並センター

武蔵野台地に一筋の水路 野火止用水と古刹、平林寺

野火止（のびとめ）といわれた武蔵野台地に拓かれた水路が、広大な沃地を生みました。開削は“知恵伊豆”と呼ばれた川越城主、老中松平伊豆守信綱の命によるもので、別称「伊豆殿堀」です。

一方、平林寺は、南北朝時代に現在のさいたま市岩槻に創建され、松平一族の菩提寺でした。寛文3（1663）年、信綱の遺命によって、現在地に移転しました。

今回は、平林寺の臨済禅の専門道場としての、凜としたたたずまいに触れながら、東京ドーム9個分の、境内林の新緑のかぐわいを感じ、野火止用水緑道の一部で、さまざまな緑色と、咲き競う野の花を満喫しましょう。



252 回WHOウォーキングのご案内

期日：2023 年 5 月 27 日（第4土曜日）

コース：西武新宿線・ひばりが丘駅－＜バス＞－
平林寺－平林寺境内－睡足軒の森－伊豆
殿橋－野火止緑道－野火止緑地総合公園
－JR 武蔵野線・新座駅

◎当日の参加人数、天候・疲労度などに
よってコースを変更することがあります。
道はどこも平坦です。

集合・出発：西武線ひばりが丘駅改札口 10:00（バ
スの時間があります。時間厳守）

受付：初回の方は、必ず連絡先住所、電話番号を

書いてください。これまで書いていない方
もお願いします。

解散：JR 武蔵野線・新座駅 14:30 頃

路線バスで西武池袋線に向かうことも可
能です。

携行品：名札、マスク、健康保険証、弁当、シート。

（平林寺境内は飲食禁止のため昼食時間
が遅くなります）

参加費：300 円、交通費、拝観料 500 円は各自負
担。初参加の方は、名札代 200 円（必ず
装着してください。）

みどころメモ

野火止(のびとめ)：地名は飛鳥・奈良時代に入植した渡来人の焼き畑農法による飛び火を防ぐために見張りの塚や堤を築いたことに由来すると言われる。

野火止用水：台地の開拓者のための飲用水として、玉川上水の小平市付近から分水したもの。玉川上水完成の2年後の1655(承久4)年に開通させた。

松平伊豆守信綱：川越藩主。老中として徳川3代将軍・家光、4代将軍家綱に仕え、玉川上水開削、島原・天草の乱を平定するなど、優れた治世を行い、先見の明から“知恵伊豆”と謳われた。

金鳳山平林寺：1375(永和元)年、現さいたま市岩槻区に創建された。本山は、京都花園の妙心寺。やがて川越藩主、老中を務めた松平伊豆守信綱一族の菩提寺となり、1663(寛文3)年、信綱の遺命によって現在地に移転した。

1904(明治37)年、臨済宗妙心寺派として関東で最初の専門道場として平林僧堂が開山した。境内には観光客を迎える寺院と一線を画した凜としたたたずまいがある。境内面積は56万㎡、境内林は東京ドーム9個分。1963(昭和38)年、国の天然記念物に指定された。

睡足軒(すいそくけん)の森：かつて上野国高崎藩松平右京家の飛地があり、5か村を支配するために野火止の陣屋がおかれていた。その後「電力の父」と言われた実業家、松永安左エ門別邸になり、松永が、晩年茶室で我流の茶道を楽しんだ。

安松金衛門：島原、天草の乱の際、幕府軍食糧方としての才を認められ、松平信綱の普請奉行にとして、玉川上水工事に尽力した。野火止用水工事も貢献した。没後、墓は玉川上水終着の新宿・大宗寺に葬られたが、今は平林寺の松平家の墓所脇に移された。戒名の“院殿号”も異例。

野鳥の楽園、谷津干潟は —5月ウォーキング報告—

「たまには、千葉方面に」という声に応じて習志野市の谷津干潟を選びました。かつて谷津遊園、谷津海岸として人気がありました。高度成長の時代に東京湾は埋め立てられ、干潟は追い詰められました。自然保護団体、地元住民の運動と国の指導もあり、長方形の干潟公園が残り、野鳥の楽園となっています。

当日は JR 総武線津田沼駅に集合、バスで 10

分、東口から園内に入りました。干潟は東京湾と2本の川でつながって干満は東京湾とは50分遅れです。自然観察センターまで干潟を観ながら歩き短いレクチャーを受け芝生広場で昼食。ここで、自然観察組と野鳥観察組に別れました。バードウォッチングには14人が参加しました。

この日は干潮が午後1時26分。潮が引いていくさま、カニや野鳥の活動を観ることができました。同行のレンジャーによると、干潟で見ることができた野鳥は、コガモ、ハシビロガモ、スズガモ、オオバン、カルガモ、アオサギ、メダイチドリ、ダイゼン、チュウシャクシギだったそうです。

干潟を半周したところで、2組合流、なんとなく遊園地華やかな頃の雰囲気を残す駅前商店街を抜けて京成線・谷津駅で解散しました。

参加者54人はコロナによる中断の再開後、最多でした。やはり千葉方面の方も増え、千葉市在住のワイズメンズクラブのご夫婦の応援参加もありました。(吉田)



双眼鏡をもって野鳥観察

谷津干潟で野鳥観察をしました。観察をする前に、観察センターでオリエンテーションを受けました。双眼鏡を持つのは久しぶり。両眼を当ててのぞくと、赤い膜がレンズをカバーしているように見えました。多分、スイッチを押せば全開になるのだらうと思っていたら、レンジャーはそのことには触れず、話を先に進めます。

自分で解決せざるを得ないと、いろいろひねくり回していると、周囲が気づいて、「何やっているんですか」「赤いフィルターが邪魔して何も見えません」「私に見せてください」、「ちゃんと見えますよ」、「そんなことない」、「あなた！前の人の背中を観てるんじゃないですか！」なるほど、なるほど、前に座っている人が赤いウインドブレーカーを着ていました。(AY)